

1 以下の問1と問2の文章を読み、下線部(1)～(10)に関する問いについて、a～dの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。また、波線部A～Cに関する問いの答えを、記述解答用紙の所定欄に記入しなさい。

問1 古来、ヨーロッパでは、奴隷などの不自由民を除くと、自由人のあいだでは、互いの権利は平等であるという社会的通念があった。それが、古代ギリシア<sup>(1)</sup>で花開いた直接民主政や古代ローマ<sup>(2)</sup>の共和政の政治や文化の背景にあった。それゆえ、古代地中海世界<sup>A</sup>では、身分に基づく特別な権利を要求する貴族とそれを否定する平民とのあいだで激しい闘争が引き起こされたのである。

古代のゲルマン人もまた、同じような平等の観念を持っていたが、中世ヨーロッパ<sup>(3)</sup>では、12世紀頃から中央集権化を開始する国王権力の下で、聖職者、貴族、平民を区別する三身分制が次第に定着していった。そのような身分観は、絶対王政<sup>(4)</sup>の時代にも保持された。そこでは、国王権力が、社会のさまざまな団体に身分や権利の差を設けて、いわば断断的な統治を行うことが目的だったと考えられている。しかし、同じ12世紀頃以降、次第に経済的に台頭していく市民層は、自然法思想や啓蒙思想<sup>B</sup><sup>(5)</sup>によっても触発されつつ、現在につながる民主主義を準備していったのだった。

基本的人権や法の下での平等という、現在の民主主義の基本的な考え方の成立には、このようなヨーロッパにおける人間の権利の歴史が深くかかわっているのである。

(1) 古代ギリシア世界について、正しい説明はどれか。

- a アレクサンドロス大王が征服したアジアの領土は、アンティゴノス朝マケドニアが継承した。
- b アテネでは、アクロポリスで市場が開かれた。
- c 民主政は、デロス同盟に加盟した諸ポリスを中心として広まった。
- d フィリッポス2世が結集したコリントス同盟（ヘラス同盟）には、ギリシアの全ポリスが参加した。

(2) 古代ローマについて、正しい説明はどれか。

- a カエサルは、元老院と結んだクラッススを打ち破って、独裁を開始した。
- b 共和政期を通じて、平民はコンスルになることができなかった。
- c 最高の常設公職であるコンスルには、原則として、任期1年で、2名が同時に就任した。
- d 同盟市戦争の結果、全属州の同盟市の市民にもローマ市民権が与えられた。

(3) 中世ヨーロッパについて述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。

- ① ゴシック式大聖堂が建設された背景には、本格的に発展しつつある都市民の経済力があつた。
  - ② ビザンツ帝国では、ゲルマン人の大移動にもかかわらず、商業と貨幣経済が繁栄を続けた。
- |       |     |       |     |
|-------|-----|-------|-----|
| a ①－正 | ②－正 | b ①－正 | ②－誤 |
| c ①－誤 | ②－正 | d ①－誤 | ②－誤 |

(4) 絶対王政の典型は、ルイ14世治下のフランスに見られる。以下のことがらや人物のうち、ルイ14世の統治に直接関係するものはどれか。

- a 全国三部会の開催
- b ボシュエ
- c リシュリユー
- d ルイジアナの割譲

(5) 啓蒙思想とその影響を受けたことがらについて、正しい説明はどれか。

- a ヴォルテールは、『法(6)の精神』を著して、三権分立を説いた。
- b オーストリアでは、マリア＝テレジアにより、農奴解放令が公布された。
- c ケネーの『経済表』などの重農主義の著作が発表された。
- d コルネイユ、ラシーヌなどにより、古典主義の演劇が創作された。

問2 中世後期に始まるルネサンスは、それまでローマ＝カトリック教会によって強く規制されていた文化や思想を、ヒューマニズム（人文主義）<sup>(6)</sup>の原理に従って解放し、革新しようとする文化運動だったが、ローマ教皇を頂点とするカトリック教会の権威そのもの<sup>(7)</sup>を否定することはなかった。

これに対して、2017年に開始500周年を迎えた宗教改革<sup>(8)</sup>は、カトリック教会の定めるキリスト教の教義を批判し、新教の各派を生み出したのみならず、世俗社会のすみずみまでを支配していた教会のあり方に大きな変更を求めるものだった。そこには、カトリック教会との対立<sup>(9)</sup>と同時に、封建勢力に対抗して、本格的な社会進出を開始した市民層<sup>(10)</sup>が求めた新しい宗教の形が色濃く反映されていた。

(6) ルネサンスについて、正しい説明はどれか。

- a コペルニクスは、プトレマイオスの地動説に基づき、教会が教える天動説を否定した。
- b シエナ生まれのダンテは、トスカナ語により『神曲』を著した。
- c ラファエロは、システイナ礼拝堂の壁に「最後の審判」を描いた。
- d ルネサンス様式の建築では、円形ドームなどの古典古代的な建築要素が多く取り入れられた。

(7) ヒューマニズム（人文主義）の内容としてふさわしくないものはどれか。

- a ギリシア・ローマの古典研究
- b 「祈り、働け。」
- c 人間理性の尊重
- d ビザンツ帝国の学者の影響

(8) 宗教改革について、正しい説明はどれか。

- a ジュネーヴでは、カルヴァンの思想に基づいて、禁欲的な神権政治がおこなわれた。
- b チューリッヒの改革者ツヴィングリは、『ユートピア』を著した。
- c ミュンツァーが指導したドイツ農民反乱軍は、一貫してルターに支持されていた。
- d アウクスブルクの和議により、諸侯は、カトリック派、ルター派、カルヴァン派のいずれかを選択し、採用することができるようになった。

(9) カトリック側の改革は対抗宗教改革と呼ばれるが、その内容としてふさわしくないものはどれか。

- a 宣教師の明朝中国への派遣
- b 禁書目録の作成
- c 宗教裁判の開始
- d フランシスコ＝ザビエルらが参加したイエズス会の創設



2 バルト海沿岸の国家と都市について述べた以下の文章を読み、下線部(1)～(10)に関する問いについて、a～dの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。また、波線部Aに関する問いの答えを、記述解答用紙の所定欄に記入しなさい。

スラヴ人<sup>(1)</sup>、バルト人、フィン人などが居住していたバルト海<sup>A</sup>周辺の領域は、12世紀から13世紀にかけて、西欧世界との結びつきを強めていった。エルベ川以東に進出したドイツ人入植者がこの地のキリスト教化の担い手であった。こうした植民は交易を活発化させ、やがて都市への定住が進んだ。バルト海沿岸の諸都市や内陸都市は、いわゆるハンザ同盟<sup>(2)</sup>を形成して、政治・商業上の影響力を強めた。

15、16世紀、ヨーロッパの強国となったポーランド＝リトアニア国家の拡大が進む中で、グダンスクを含むプロイセンの西半分は併合<sup>(3)</sup>され(王領プロイセン)、東プロイセンのアルブレヒトはプロイセン公としてポーランド国王の封臣となった。だが、ポーランド＝リトアニア国家は、ヤゲウォ朝断絶後、国力の低下をみた。

プロイセン公とポーランド王の関係が解消され、1701年に成立したプロイセン王国<sup>(4)</sup>は、第1次ポーランド分割で、王領プロイセンを獲得した。さらに、第2次、第3次分割を経て、18世紀末<sup>(5)</sup>、ポーランド＝リトアニア国家は消滅した。ナポレオンの大陸支配<sup>(6)</sup>で国家復活を期待したがかなわず、再び独立国家となったのは第一次世界大戦後<sup>(7)</sup>である。その後、第二次世界大戦を経て、旧ポーランド王領プロイセンはふたたびポーランドの領土となっている。一方、かつての東プロイセンの大半はロシア<sup>(8)(9)</sup>となっている。<sup>(10)</sup>

(1) スラヴ人について、誤っている説明はどれか。

- a スラヴ人のうち、ロシア人やセルビア人はギリシア正教を受容した。
- b ロシアは、パン＝スラヴ主義を利用して、バルカンでの勢力拡大をはかった。
- c キュリロスは、スラヴ語を表記するための文字を考案した。
- d オーストリアは、スラヴ人の要求を受けて、アウスグライヒ(妥協)に同意した。

(2) ハンザ同盟の都市でないのはどれか。

- a アウクスブルク
- b ケルン
- c ブレーメン
- d リューベック

(3) グダンスクで、自主管理労組「連帯」が組織されたのはいつか。

1956年ハンガリー事件→ a →1973年東西ドイツの国際連合加盟→ b →1985年ゴルバチョフのソ連書記長就任→ c →1993年マーストリヒト条約発効→ d

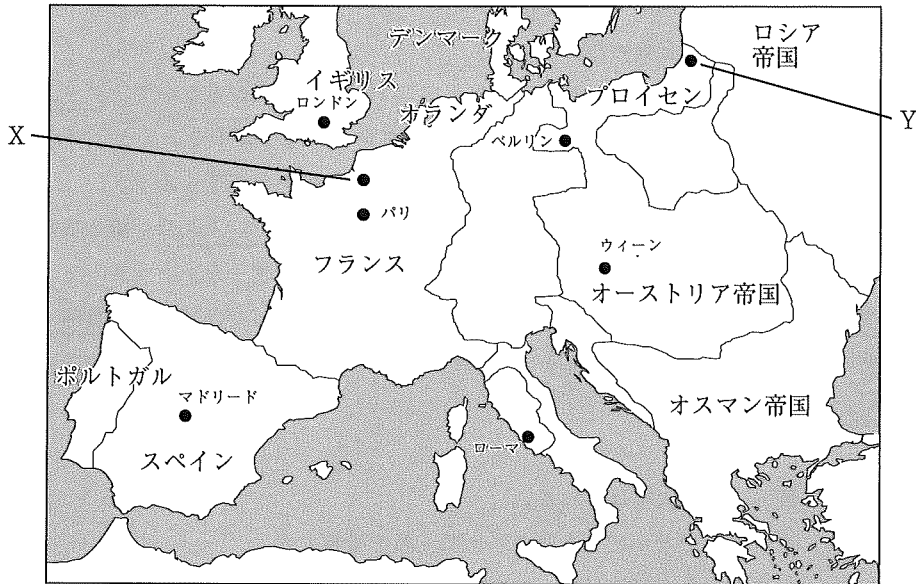
(4) ヨーロッパ史における併合や征服について、誤っている説明はどれか。

- a 17世紀にクロムウェルは、アイルランドとスコットランドを征服した。
- b ロシア皇帝アレクサンドル1世は、クリミア半島を併合した。
- c ナチス＝ドイツは、民族統合を名目にオーストリアを併合した。
- d 両大戦間期、イタリアはアルバニアを併合した。

(5) プロイセンの歴史について、正しい説明はどれか。

- a シュタインとハルデンベルクが農奴制を強化した。
- b ドイツ関税同盟の中心となった。
- c ユンカー出身のビスマルクが、議会の支持を得て軍備を拡張した。
- d オーストリアと結び、シュレスヴィヒ・ホルシュタインをめぐるスウェーデンと戦った。

- (6) 18世紀の植民地をめぐる動きについて、正しい説明はどれか。
- a アメリカ合衆国が、米西戦争後、プエルトリコを併合した。
  - b イギリスが、スペイン継承戦争の結果、北アメリカの領土を獲得した。
  - c オランダは、アンボイナ事件を契機に、イギリス勢力をインドネシアからしめだした。
  - d ヴィクトリア女王が、インド皇帝に即位した。
- (7) ワルシャワ大公国を成立させた条約名とその締結地の地図上の位置の組合せとして正しいものはどれか。



ナポレオン時代 (1810-1812年) のヨーロッパ

- a アミアンの和約-X
  - b ティルジット条約-X
  - c ティルジット条約-Y
  - d アミアンの和約-Y
- (8) 第一次世界大戦中の出来事について、古いほうから時代順にならべた場合、3番目にくるのはどれか。
- a ウィルソン大統領による14か条の平和原則の発表
  - b キール軍港の水兵反乱
  - c タンネンベルクの戦い
  - d ブレスト=リトフスク条約の締結
- (9) 第一次世界大戦について述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。
- ① 英仏は、植民地の人々をヨーロッパの戦線に動員した。
  - ② 日仏同盟を理由に、日本もドイツに宣戦した。
- a ①-正 ②-正
  - b ①-正 ②-誤
  - c ①-誤 ②-正
  - d ①-誤 ②-誤
- (10) ロシアの歴史について、正しい説明はどれか。
- a サン=ステファノ条約で、ルーマニアを保護下に置いた。
  - b ニコライ1世が、日本に使節としてラクスマンを送った。
  - c ニコライ2世が、十月革命で退位した。
  - d ピョートル1世が北方戦争で、スウェーデンに勝利した。

設問A. ア , イ に当てはまる語を記せ。

チャーチルは、1946年、「バルト海のシュテッティンからアドリア海の ア まで イ が降りている」とソ連を批判し、「冷戦」をさきどりする演説をおこなった。

- 3 以下の文章を読み、下線部(1)～(10)に関する問いについて、a～dの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。また、波線部A～Cの問いの答えを、記述解答用紙の所定欄にすべて漢字で記入しなさい。

国の首都は行政・経済・軍事等の中心として機能するが、それが置かれる場所はその国が建国された経緯や歴史的諸事情によって左右される。だからこそ、首都は移転する。中国の歴史を大局的に眺めると、首都の移動にある特徴的な傾向が見られる。長い歴史の前期においては首都は東西に動き、後期においては南北に動くのである。

殷<sup>(1)</sup>は、甲骨史料の内容や遺跡の分布から見て、明らかに黄河下流域にあった。その殷を滅ぼした周<sup>(2)</sup>は西方の渭水流域から興り、本拠地が保てなくなると東方に移った。漢王朝<sup>(3)</sup>も前漢は都を長安に、後漢は洛陽に置き、ここでも東西に移動している。後漢以降、洛陽は華北の政治的中心地であり続けたが、北魏<sup>(4)</sup>が東西に分裂すると、西魏は都を長安に定めた。唐<sup>(5)</sup>は西魏・北周・隋を受け継いで成立したので長安を都としたが、洛陽<sup>A</sup>を東都と称して副都とした。唐末の混乱期<sup>(6)</sup>を経て五代期になると、都は洛陽とさらにその東方の開封(汴州)の間を移動した。北宋は開封<sup>(7)</sup>に都を置いたが、開封が東京と呼ばれたのに対して洛陽は西京と呼ばれた。ここまでの諸王朝の都は東西の位置関係で動いている。

金が華北に進出して中国統治の拠点を燕京に置き、元が大都を都としてから、今日の北京が繁栄した。そしてこれ以降、中国の首都は北京・南京の南北で動くことが多くなる。内陸が辺境化し、沿岸地帯の港湾都市が発展して、それらの地の人口が増加したと関係があると考えられる。元末の紅巾の乱<sup>(8)</sup>は、以前の反乱とは違って江南の地を主要な展開地域としている。元に替わった明<sup>(9)</sup>は、当初は南京を都としたが、第2代皇帝の末期に起きた靖難の役を契機に都は北京に遷された。以後、北京は首都であり続け、山海関から中国に進出した清も北京を都とした。それでも南京は江南の主要都市の地位を保ち、たとえば19世紀に起こった太平天国の乱<sup>(10)</sup>は南京を陥れ、ここを都として北京に対抗した。

明清期に江南では上海が徐々に台頭し、清末から辛亥革命後には経済的に大都市へと発展していた。それでも南京は政治的に重要な都市と目され、例えば上海クーデタ<sup>(11)</sup>を起こした蒋介石も国民政府を南京に置き、また日中戦争期の日本も一時南京に傀儡政権を建てた<sup>(12)</sup>。

(1) 夏を滅ぼしたといわれる殷の王は誰か。

- a 禹                      b 堯                      c 桀                      d 湯

(2) 西周の時代について、誤っている説明はどれか。

- a 都とされる地はいくつかあるが、鎬京はその一つである。  
b 封土の分与によってその地の統治をまかせる封建制度が行われた。  
c 宗法は宗族を維持するための規範であった。  
d 各地で青銅貨幣が鑄造され、布銭・刀銭などが流通した。

(3) 漢の時代について、誤っている説明はどれか。

- a 呉楚七国の乱を契機に、郡県制と封建制を併用する郡国制に切りかえられた。  
b 武帝は貨幣の混乱を避け、五銖銭を正式な通貨とした。  
c 党錮の禁は政治を乱し、後漢衰退の一因となった。  
d 『漢書』は後漢時代に完成された。

- (4) 唐末～宋初の時代について、誤っている説明はどれか。
- a 唐の滅亡から宋の建国までの短命な五つの王朝を五代と総称する。
  - b 開封は大運河の水運による物資集散の要衝地であった。
  - c 遼は建国の援助を受けた代償として、後晋に燕雲十六州を割譲した。
  - d 趙匡胤は文治主義の方針を採り、節度使の兵権を徐々に奪った。
- (5) 北宋の開封を描いたとされる絵画「清明上河図」の作者は誰か。
- a 徐揚                      b 張択端                      c 董其昌                      d 馬致遠
- (6) この反乱について、誤っている説明はどれか。
- a この動乱の英雄たちをモデルとして『水滸伝』が書かれた。
  - b 朱元璋はこの反乱の指導者の一人として頭角を現した。
  - c 白蓮教などの宗教結社が中心となって起こった。
  - d 大都を放棄してモンゴルに移った元の残存勢力を北元という。
- (7) 明の時代について、誤っている説明はどれか。
- a 行政機構は皇帝の直属となり、中書省は廃止された。
  - b 永楽帝以後は「一世一元」の制を用いることにした。
  - c 長江下流域では綿織物や生糸などの家内制手工業が盛んとなった。
  - d 里甲制が施行され、租税台帳の「賦役黄冊」が作られた。
- (8) 山海関で清軍を防いでいる間に明が滅び、清軍とともに北京を回復して雲南の藩王に封じられたのは誰か。
- a 顧憲成                      b 呉三桂                      c 張居正                      d 鄭芝竜
- (9) 太平天国について、誤っている説明はどれか。
- a 指導者洪秀全は客家の出身であり、キリスト教の影響を受けていた。
  - b 拝上帝会は広西省金田村で蜂起し、南京を占領してそこを天京と称した。
  - c 「扶清滅洋」のスローガンを掲げたために、列強の支持を得られなかった。
  - d この反乱の最中にアロー戦争が起こり、天津条約が結ばれた。
- (10) 国民党左派の政治家で、この傀儡政権の主席となったのは誰か。
- a 汪兆銘                      b 宋教仁                      c 段祺瑞                      d 張学良

設問A この時代に酈道元が著し、川の流れに沿って地理や史跡を記した書物の名を記せ。

設問B 唐・玄宗の時代に、西魏に始まる徴兵制度が廃止されて新しい兵制が施行された。この新制度の名称を記せ。

設問C 上海で中国経済界を支配してこのクーデタを背後で支持し、その後も蔣介石と結んだ当時の民族資本家集団の名称を記せ。

- 4 中国とイスラームの歴史について述べた以下の文章を読み、下線部(1)～(10)に関する問いについて、a～dの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。また、波線部A、Bに関する問いの答えを、記述解答用紙の所定欄に記入しなさい。

現在中華人民共和国には寧夏回族自治区、新疆ウイグル自治区をはじめ、全国各地に多くのイスラーム教徒（ムスリム）が居住している。中国とイスラームの交流の歴史は8世紀にさかのぼる。このころイスラーム勢力は中央アジア、インド西部、イベリア半島へと進出した。イスラーム世界の拡大にともない、中国は様々なかたちでムスリムとかわりをもつようになった。<sup>(1)</sup>751年、タラス河畔の戦いで唐の軍隊はムスリム軍に敗れたが、当時国際都市であった都長安にはイスラーム世界からの使者も訪れた。<sup>(2)</sup>一方海のシルクロードでも、ムスリム商人は東南アジアを経て中国沿岸に進出し、広州を中心に南海貿易が盛んに行われるようになった。広州は唐末の反乱の影響で一時的に衰退するが、宋代には再び活気を取り戻し、泉州、明州、杭州などととも貿易港として栄え、ムスリム商人が多く来航した。<sup>(4)</sup>

13世紀になるとモンゴル軍は中央アジア・西北インドに侵攻し、さらに西進してバグダードを占領するなど、イスラーム世界を脅かし支配地に国を建てた。<sup>(5)</sup>1271年にフビライは大都を都とし国名を元とした。<sup>(6)</sup>元朝は、中央アジア、西アジア出身の者を財務官僚などとして重用した。彼らは色目人と呼ばれムスリムが多かった。また、パクス・モンゴリカの下、ムスリム商人の隊商交易が栄えた。モンゴル時代は東西交流がきわめて盛んな時代であった。<sup>(8)</sup>

明代では、ムスリム宦官鄭和が艦隊を率いてインド洋からアフリカ沿岸まで遠征した。清朝期には、ジュンガルを滅ぼして東トルキスタン全域を占領し、この地を「新疆」と名付けた。<sup>A</sup>ここではウイグル人有力者（ベク）を現地の支配者とする間接統治が行われていたが、1864年、清朝支配に対するムスリム反乱が起こった。<sup>B</sup>この機に乗じてヤークーブ＝ベクが政権を樹立したが鎮圧された。<sup>(9)</sup>ロシアはこの事件に際し、イリ地方に出兵し占領下に置いた。1881年、清朝はロシアとイリ条約を締結して国境を確定した。<sup>(10)</sup>新疆は、辛亥革命で清朝が倒れた後、中華民国が、さらに後に中華人民共和国が領土を継承し、現在に至っている。現在新疆ウイグル自治区では、漢族の流入が進行しており、漢人の人口増加にともなって民族対立が激化し、2009年には暴動に発展した。

- (1) イベリア半島のイスラーム勢力について、誤っている説明はどれか。
- a ウマイヤ朝によってトレドを都とする西ゴート王国は滅ぼされた。
  - b トゥール・ポワティエ間の戦いでウマイヤ朝はフランク王国に敗れた。
  - c 後ウマイヤ朝の君主アブド＝アッラフマーン3世は自らをカリフと称した。
  - d ナスル朝の都コルドバが陥落し、イベリア半島のレコンキスタが完了した。
- (2) この戦いが行われた場所は現在のどの国に位置するか。
- a アフガニスタン
  - b キルギス
  - c 中華人民共和国
  - d パキスタン
- (3) 当時のイスラーム世界で長安に匹敵する国際都市バグダードを造営したアッバース朝のカリフは誰か。
- a アブー＝バクル
  - b ハールーン＝アッラシード
  - c マンスール
  - d ムアーウィヤ
- (4) つぎの貿易港のうち唐代に初めて市舶司が置かれたのはどこか。
- a 広州
  - b 泉州
  - c 明州
  - d 杭州



